



EF-M18-150mm F3.5-6.3 IS STM

価格7万3440円

18mmから150mmまでをカバーする約8.3倍の高倍率ズームレンズにキヤノンは非球面レンズにUDレンズをふんだんに配置してズーム全域でシャープな画像を実現してきました。しかも全長86.5ミリ質量約300gのコンパクト設計。これ1本で35mm判換算約29mmのワイドレンジから240mmの望遠撮影までこなします。なお、望遠側150mmには最短撮影距離にて最大撮影倍率0.31倍の接写もお任せあれ。



シャッター速度：1/2000秒
絞り：F6.3
撮影感度：ISO100
RAWフォーマット：「.CR3」で撮影後カメラ内にてJPEG現象



EF-M22mm F2 STM

価格3万2400円

日常のあれやこれを思い出にのびっぴりなのがコンパクトにまとまったこのパンケーキレンズEF-M22mm F2 STM。ボディキャップよりは出っ張りですが非常に小型で携帯性が良く、換算35mmレンズでF2の明るさを持つこのレンズは素早いスナップ撮影に最適。「お！ いいな！」と思ったら反射的にシーンを切り撮ることができるのです。フィルター効果「水彩風」を使用したこの写真、とあるスポーツチームの取材風景の一枚ですが中にはオリンピックでアレした有名人もいらっしゃるので気が付いた方はそっと「誰か判った僕もしくは私すげえ」とニマリと想い出に仕舞っておいてくださいな。

絞り優先オート：F2
露出補正：-0.3補正
撮影感度：ISO400
フィルター効果：「水彩風」
色濃度・濃い使用

こ
ん

電子写真機戀愛

いよいよ Kiss もミラーレス。

25年目の EOS Kiss M

第六夜

な
寫
真

1993年秋に発売された初代EOS Kissより今年で25年。よちよち歩きの姿をフィルムに焼き付けてくれたカメラが初代EOS Kissだったお子さんもすでに独り立ちし、ぼちぼち新しい家庭を設けてもおかしくない年頃になったことに気が付いた2018年現在。初代Kissの登場をリアルタイムで見ていたおじさんとしては「えっ！ もうそんなに経つ？ へえ25年かあ。オトナの言葉使いだといわゆる四半世紀つつうヤツだな！」といいながら鏡の前で白いモノが混じった生え際を眺め、ケケケと力なく咳払いのひとつふたつ。そういえばもうしばらくフィルム使ってないな僕なんて思いながらもうすっかりデジタルカメラ化したEOS Kiss Mを見つめております。

このミラーレス化して初めてのKiss Mの画像処理エンジンには最新のDIGIC8を採用、処理能力が増大し画質やAF性能が大幅に強化。とくにオートフォーカス性能が向上しており、EF-M18-150mm F3.5-6.3 IS STMなどの最新レンズを使用した場合はセンサー面の横約88%、縦約100%のエリアで最大143点の測距点を活かしたオートフォーカスが可能なんです。エントリー機種としては充分すぎる有効画素数約2410万画素の高画素映像と常用ISO感度100から25600、感度拡張の場合は最高ISO51200もの高感度撮影が行え、AF追従の連写速度は約7.4コマ/秒とかなりの本格派。

そして超コンパクトなボディながらカメラらしいシルエットには236万ドット、0.39型EVFを内蔵しているので両手でカメラを構えつつ、接眼しての強固な撮影ポジションをとることができるのがやれうれしや。両足を踏ん張り肘とオデコの三点支持で磐石の撮影姿勢とファインダーを覗んだスキのない撮影スタイルをとれるのはおじさんたちのモチベーションアップにもつながるのでありますよ。しかも、こういった撮影姿勢はすこぶる手ブレに強い……え？ このEOS Kiss Mはレンズ交換式では世界初のデュアルセンシングISを採用し、光学ISユニットの制御ならびにCMOSセンサーの画像情報からもブレ量を検出し高精度に手ブレを抑えることに成功しました、だって？ じゃあ、どう撮影しようがブレ知らずなのですか。

そしてこのカメラがどれくらい気軽なカメラなのかと

一途にKissして25年。ブレること無し。



EOS Kiss MはEF-M18-150mm F3.5-6.3 IS STMをはじめ、EF-M15-45mmや同55-200mmを装着すればレンズ交換式カメラ初のデュアルセンシングISが作動。ジャイロセンサーだけではなくCMOSセンサーの画像情報からもブレ量を検出して、より高精度に手ブレを制御してくれるのであります。

いうと幅約116mm、高さ約88mmのポケットに入りそうなコンパクトボディ。ほんとにこのサイズでAPS-Cサイズのセンサーが搭載されているのだらうかというミニマムサイズ。質量も約390gという驚きの軽さ。ホントにコレ中身入っているのかと不安に思う小型軽量一眼レフデジカメ代表のEOS Kiss X9ですら約453gなのでありますからこの新しいEOS Kiss Mがどれほど小型軽量なのかおわかりいただけるかと思います。

それでいながら撮影機能は多彩。各種エフェクトのフィルター効果、ミラーレスらしいサイレントな無音撮影機能、印象的な作品が撮影できるHDR撮影機能、高精細な4K動画撮影機能とカメラ内部で処理可能な4K切り出しやSNS時代にふさわしい最新機能「撮影時スマホ自動送信」も備え、専用アプリ「Camera Connect」を使えば、ペアリングしたスマホへ撮影と並行して画像を自動送信できるので撮影後に、わざわざスマホに画像を保存する手間が省けるというどんだけインスタ意識すれば気が済むんだという機能も搭載。だって「いいね」もらえると気分いいからね！ いいね！

ま、SNSなんて興味ねえ！ 作品を撮るために俺はEOS Kiss Mをこの手に握るぜ！ というかわいいモノ好きな無骨派にも朗報なのがRAWデータのコンパクト化。この新RAWフォーマット「.CR3」はデータの軽量化による処理速度と連写速度の向上を目指しEOS Kiss Mから導入された最新の技術。あだし個人の見込みですがだいたいですがこれまでの6割から7割手前くらいのデータ量で済む感じですよ。撮影データは軽いに越したことはありませんからこれは大歓迎でありますな。

レンズも小型軽量なEF-M22mm F2 STMをまずはひと推し。厚みはわずか約23.7mm、重さもわずか約105g。ボディに装着しても携帯性をまったく損なわないサイズのパンケーキレンズであります。開放F値F2という明るさなので背景のボケがキレイなのも魅力。もう一本選ぶなら、EF-M18-150mm F3.5-6.3 IS STMが便利。ワイド側35mm換算約29ミリの広角から換算240mmまでの本格望遠域までを1本でカバーする純正高倍率ズームレンズ。旅先で見つけたダイナミックな風景写真から、イベントで必須の望遠撮影まで幅広くこなす万能レンズでございます。

それではパパさんママさん保護者の皆さま、お子さんの成長をEOS Kiss Mと軽量シャープなEF-Mレンズと共にKiss is your life !

ボディもデータもコンパクトに。



被写体にもよりますが、約2410万画素のRAWデータはだいたい28メガから30メガちょっとの後始末に困るサイズなんですけどEOS Kiss Mから新たに採用された新RAWフォーマットの「.CR3」では同じ被写体では15メガから18メガくらいにまとまる感じですよ。半分とまでは行きませんがこれくらい軽くなるとぐっと処理速度が速くなって、データ管理も楽になります。



写真と文 織本知之
「よくたまに『つかい写真を撮るオ
フア』が来ます。前に、駅に貼るとい
う両手幅のサイズのポスターのと
きはさすがにフルサイズの大画素機
種を借り出しましたが、今回はデカ
いといっても新聞全面、印刷線数的
にそんなに『つかい画素いらんぞ』
でしょ？ というフケでいつものミラ
ーレスで撮りましたが……結果ぜん
ぜんオライ、とっぴららいい。

キヤノン EOS Kiss M

CMOSセンサー(デュアルピクセルCMOS AF対応)
有効画素約2410万画素
デュアルピクセルCMOS AF方式
顔+追尾優先AF、ゾーンAF、瞳AF、1点AF
シーンインテリジェンスオート搭載
クリエイティブアシスト機能搭載
ISO100~25600(拡張51200)
ボディ幅約116.3×高さ約88.1×奥行58.7mm
本体質量約351g(本体のみ)
ボディ オープン価格(実勢7万9000円前後)
©キヤノン 050-555-90002

一眼レフスタイルに恋しちゃう



一眼レフタイプっぽいカメラシルエットがステキなEOS Kiss M。背面の3.0型の大型液晶モニターはバリエーション方式で約104万ドットと精細かつ自在でタッチパネル操作もOK。自由度も高くライブビューでの撮影がそりゃ便利に出来てますよ……でもやっぱり覗いて撮りたい！ というひとのために236万ドットのEVFを投入。メガネ男子&エントリー老眼気味な筆者でもすこぶる快適であります。あと内蔵ストロボがカワイイ&実用的。